



(図版③)

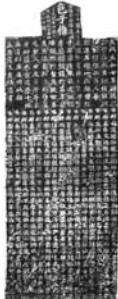
A 之謙
B 所藏庭
C 瑞圓

(図版②) 末行

「落ち穂拾い記最旧拓本」(中) ④

(図版④) 1、2行目下部

孫秋生劉起祖等二百人造像記



(図版⑤) 鄭長猷造像記



(図版⑥)



前号で紹介した「龍門全套」は、内山雨海先生旧蔵本であった。当時、内山先生は健在であり、書だけでなく水墨画を取り入れた作品を創られ、活躍されていた。先生を中心とするグループ展が銀座で開催されていたときには、この龍門全套についてお尋ねしたいと思いつき会場に出向いたことがあった。その日は、先生は不在で会場の係の方に来意を話した。後日、先生から直接電話をいただき、しばらくして世田谷の自宅を尋ねた。大きなギャラリー風のアトリエに通され、あれこれお話を交わした。最後にこの全套を買いたいと告げられ、まだ購入したばかりで、とても関心のある資料なのでとお断りした思い出がある。旧蔵者の方は、医者であり、戦後の困難な時期に、内山先生の奥様を治療された御礼として譲り受けたと。箱書きには、昭和9年に入手し、昭和23年に旧蔵者に譲り受けたとある。また戦前から戦後、そして現在までも続く漢籍の専門の山本書店の大きな値札も付されていた。こうした剪装の龍門全套は、現在においても得難い。昭和の末から平成にかけて、経済の発展とともに書道界も活発になり、古書店以外に中国と交流のある文房四宝や美術工芸品を扱う業者や中国の新刊書を扱う書店等が、碑法帖拓本も中国から輸入し、即売するのを日にするようになつた。中国系の新刊書店で、偶然にも龍門「二十品」の最も大きな「孫秋生造像記」整拓本を見つけた(図版①)。小さく折り込まれ、広げると上部の碑額風の大きな「邑子像」の題字が目に飛び込んできた。末行の「來祖香」の部分を確認して驚いた。「祖」字も「香」字も明晰に残り、北京の文物本と同時代の拓である。これまでの日本の刊行本では、「祖」字の下部が損傷、「香」字の上部が完全に損傷し、下部の「日」の下半分が残るのみであった。拓調も精拓であり、拓紙の破損もなく、「孫秋生造像記」の最旧拓に属する(図版②)。上部にA「之謙審定」B「旭庭所藏」C「瑞圓過眼」の三種の鑑藏印を見る事が出来た(図版③)。Aは、清末の金石家・趙之謙の審定印であり、Bも清末の金石家・沈梧であり、Cの「瑞圓」なる人物も清朝後期の金石家であり、各種の名品にこの鑑藏印を見る。毛筆の題記は無いが、清末の名家の手を経た善本である。詳細に普通の近拓本と比較すると、1行末の數文字などは、古い拓本では、不鮮明であり、近拓本では、明晰に確認できる(図版④)。その理由は、拓工らにより、石面の長年の汚れを丁寧に取り除かれたせいである。二十品の「鄭長猷造像記」の旧拓本では、7行目末の「軀」字の「身」部が損した様で字画が見えないが、近拓では完全に見える事が出来る(図版⑤)。二十品拓本の新旧問題には、こうした一面がある。その後、しばらくして、清雅堂本のコロタイプ精印の「龍門二十品」の「孫秋生造像記」を家蔵本に差し替え、収録された(図版⑥)。整本であったが、写真で剪装にし影印された。これを機に、「龍門二十品」を剪装本ではなく、整拓の旧本で揃えてみたいとの想いがわいてきた。

伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



「千山萬水」

大嶋 珀 嘉 書

「おもい」をこめて



大
嶋
珀
曄

新型コロナウイルスが蔓延し世界中に猛威を振るう近年。ロシアのウクライナ侵攻により、目を覆いたくなるようなニュースに心が痛む毎日。書道展の開催もままならぬ年が続き、人との接触をなるべく避け、一人自分に向かう時間が増した。そんなコロナ禍での空いた時間は、今は亡き師、山本聿水先生が残された書物や作品に立ち返る時間となつた。その中で、一本の線に対峙し、一本の線をひく覚悟の文章に出逢つた。「生命的の燃焼を、凝縮する一本の線に託し、静謐の沈潜の底に、内に萌えるものをひそめ、今を生きる自分がいささかなりとも、真に『書』の心に触れうる『おもい』がかなえようと筆をとり紙に向かう」と。

私は小学生の頃から先生の書塾に通い、書の楽しさを教えていただいていた。社会人になり、母が出品していた白玄会書展で、先生の「墨象」に初めて出逢つた。青墨で書かれたその作品の穏やかな

一本の線が心に染み、線の美しさに感動した。その感動が、中断していた書の世界へ私を再び導いてくれた。

あの日から42年。いまだに墨象に苦戦している。一本の線や構成に満足のゆくものは未だ書けず、思うに任せない。ただ、作品に向かう、「おもい」だけは大切にしてきた。心を動かす。その感じた思いを、白と黒の世界で表現する。基本となる古典を広く深く学び、感じる心を研ぎ澄まし、その思いを、今生きている自分をとおして、筆に託し、紙にい込み、墨を理解し、墨の持つ魅力とパワーに力を借りて、墨象の生み出す楽しさ、苦しみをじっくり味わいながら作品に真摯に向かい合いたい。

今、未曾有の危機や災害に世界は揺れ、命の大切さを私達に教えてくれている。そこで、書に向かい合える幸せを心に刻み、まだまだ先の見えない道なれど、会の金井会長はじめ、先輩、会員の皆様、書道芸術院の先生方や皆様のご指導に感謝申し上げ、書の道をゆっくり歩き、本当に大切なものを探してゆきたいと思う。

書のひろば

理事長 下谷洋子

本院の関係団体の展覧会が続きましたので紹介します。

第61回白扇書道会展

本院第6代会長種谷扇舟先生が創立された白扇会の見所は、毎回、役員が臨書作品を披露していることです。今回では扇舟先生の「顔真卿・裴將軍詩」も展示され、形臨とは異なる発展的臨書作品の新鮮さ、鋭い視点には改めて衝撃を受けました。特別展示の原拓書道史も、代表的古典が解りやすく展示され圧巻でした。

第71回玄遠社書展

関西総局の主力団体である玄遠社は、

従来の大坂市立美術館改装のため、代替の会場の関係で、一般と学生のみの展示となりました。幹部の先生方の作品が掲げ出来ないのは残念でしたが、多様な力作が所狭しと陳列され、層の厚さを感じました。若い指導者も多い様子なので、熱く書と向き合いながら継続していくと願うばかりです。



会場入り口から展示場へ

甲信越支局で巡回展開催

長野はもう秋の気配でしたが、9月30日(金)～10月2日(日)まで、甲信越支局

甲信越支局は、香川峰雲先生が力を入展が伊那文化会館にて開催されました。

北海道支局で巡回展開催

9月6日(火)～9日(金)まで札幌大通公園美術館にて本院巡回展が開催されました。

5年前は、地元の毎日関係の先生方とご一緒に宴を開んだことなど懐かしく思い出しましたが、

今は、支局長の西岡雨瑠先生がほとんど一人で運営されたとか、月日の流れ変わりに少々寂しい感も。巡回展のみでしたが、バランスよく展示され、本院の多様な書を北の大地に印象付けたのではないかでしょうか。

れて交流を持たれた支局でもあります。(展覧会の詳細は、後日別途掲載)

全日本書道連盟理事会開催

9月15日(木)、上野精養軒にて183回理

事会が開催されました。

◎書写・書道教育推進協議会ならびに日本書道ユネスコ登録推進協議会の活動状況について

・「大学の小学校教育養成課程において、ガイドラインを示してほしい」との文部省からの要望を受け、協議

会内にテキスト(ガイドライン)作成のための部会を設置し、今年度中に協議会HP上で公開予定。

・水書用筆等を活用した書写指導法研修会の研修教材を、全国都道府県及び、市区町村の教育委員会に発送した。

◎日本書道文化協会

・「街なか書道体験」事業を実施した。

会場は、国立オリンピック記念青少年

年総合センター(7月)、ゴールデン

文具(7・8・9月)

・登録無形文化財「書道」特別揮毫会

(東京会場)を開催

8月25日(木)銀座フェニックスホール(紙パルプ会館)にて、星弘道・清水透石氏2名によって行われた。

◎令和4年度夏期書道大学講座中止

受け付けていたが、感染症拡大の影響に鑑み開催中止を決定した。3年続けての延期となる来年は開催したい。

◎令和4年度11月開催の書道講演会について(現在は未定)

その他

・書塾ハンドブックについて

6月に本連盟が発行した同誌、残部があるので、1冊100円で販売する。申込は直接連盟事務所迄。

FAX 03-5294-1372

秋の特別昇段試験の審査実施

9月27日(火)・28日(水)と2日間に亘り、秋の昇試の審査が行われました。今回

の三種は漢字半紙・かな条幅・ペン字でした。上段になりますと、昇格がなかなか難しくなります。日頃からの地道な努力が必要ですので、結果によつては学書の方法を考え直し、また次回挑戦して下さい。

会が行われました。来年は2月16日(木)から20日(月)まで日本橋高島屋で開催予定です。後日、本院の出品者は発表します。

「第54回現代女流書展」運営委員会開催

9月12日(月)現代女流書展の運営委員会が行われました。来年は2月16日(木)

から20日(月)まで日本橋高島屋で開催予定です。後日、本院の出品者は発表します。

現代詩文書基礎基本講座(29)

小竹石雲

前衛書基礎基本講座(5)

千葉蒼玄

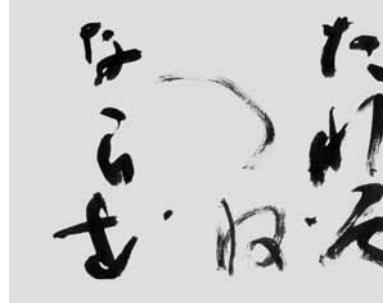
【臨書から現代詩文書への展開】

①祭姫文稿風のひらがなの表現方法

○可読性、知る、感じる、ということ

“風”について考えてみよう。

- ・起伏の厳しさを文字の大小潤渴で表現してみた。



②祭姫文稿風の現代詩文書

・「甘さ」には「抓みの塩が入ると一段と本来の甘さがひきたつ。一瞬の間に書き上がりてしまうので、考えても、なかなかその塩が生かされてこない。○○風の現代詩文書といつても、それだけではうまくない。その塩を生み出して、どう溶け込ませるかの工夫は、臨書、倣書においても大切だと思われる。

・鉄という固い物質を食すバクテリアとは、さぞ頑健な生物なのだろうなと想像しながら「鉄バクテリア」を中央に大きく書いてみた。線の厚みがもう少しあってもよかつたのかな。率意に重点を置いて書いてみた。

「鐵を食ふ鐵バクテリア鐵の中」

三橋敏雄句



漢詩作品でも、読んで解ったと思っている人でも、意味まで理解できているだろうか。理解だけなら活字でも十分であるが、私たちはその書線から感じることが大切である。

読む（可読性）は、その文字の音または訓。知るとはその文字の持っている意味。感じるのはそれを感じる心に働きかけることである。漢字または、かな作品を見た時、私たちはどうしても読もうとする。それは作品を理解するうえで大切なことではあるが、大半の人たちは読めた（文字として認識できた）ことで満足してしまう。内容（知る）までは踏み込まない。

読むことは、意味を知る上では大切ではあるが、感じることにはつながらない。書は文字である以上どうしても読もうとする。読むことは必要なわけではないが、感じることにはつながらない。図はゴシック体と褚遂良、顏真卿であるが、ゴシック体が読む知るまでは把握できるがそれ以上（感じる）までは至らない。それに対して褚遂良、顏真卿、米芾は切れの良さとか、ふくらみをそれぞれ感じさせてくれるのではないか。これが書の線を感じるということなのである。

第
76
回

書道芸術院展

— 併催 第74回 全国学生書道展 —

2023年2月5(日)～11(土・祝) 9:30～17:30 2月6日(月)休館日
(入場は30分前まで) *11(土・祝)は14時閉室

上野公園 東京都美術館

(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)



株式会社日本書道文化振興会
コンソーシアム会員企業連合会
組織しています。

一般公募・無鑑査	2022年11月28日
作品・書類受付	
審・審候	2023年1月18日
書類受付	

主催 公益書道芸術院
財団法人
後援 文化庁・公益全日本書道連盟
毎日新聞社・一般財団法人毎日書道会

第76回 書道芸術院展併催

第
74
回

全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

とき 2023年 2月5(日)～11(土・祝) 2月6日(月)
休館日

9:30～17:30 (入場は30分前まで) *11日は14時閉室

ところ 上野公園 東京都美術館 ～学生展展示～
2階 第2展示室

(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)

作品募集締切 10月25日(火)

主催 公益書道芸術院
財団法人

後援 文化庁・公益全日本書道連盟・毎日新聞社
一般財団法人毎日書道会・毎日小学生新聞



株式会社日本書道文化振興会
コンソーシアム会員企業連合会
組織しています。

書道芸術院創立75周年記念

役員作品巡回展

併催 北海道支局展

会期 令和4年9月6日(火)～9日(金)

会場 ギャラリー大通美術館

実行委員長（北海道支局長）

西 岡 雨 瑞

書道芸術院創立75周年記念「役員作品巡回展」が秋のたたずまいの中、札幌の地にて開催された。13総支局の中で最も会員数の少ない北海道支局を加えていただけたことは喜びである。私は、事前に八戸美術館で開催された日本文局展を見学し、現地の皆様のチムワーカとコロナ禍の中での用意周到な心構えを学んだ。毎日新聞北海道支社の後援依頼提出。道内の中央で活躍されている先生方も案内状を送る。

初日の6日には辻元大雲顧問、下谷洋子理事長にお越しいただいた。「会場の雰囲気がすがすがしい」と、お褒め

の言葉をいただいた。歴代会長、巡回展役員作品のみの展示であったが、皆様に支えられて開催にこぎつけられたことに感謝申し上げたい。

会場正面には歴代会長の作品群を展示了が、来場者の目に訴えたかった

ことだ。ねらい通りに書家が魂をこめた作品の前で多くの来場者が足を止め

て見入っていた。北海道で接する機会に恵まれないこれらの偉大な作品群を眼に焼きつけてくれたことと思う。毎

日書道展北海道展会期と重なり、国際書道協会会长の小原道城先生もご多忙

で見入っていた。北海道で接する機会に恵まれないこれらの偉大な作品群を眼に焼きつけてくれたことと思う。毎



ギャラリー大通美術館



歴代会長作品



巡回展役員作品

の中、足を運ばれ「傑作、凄い意気、伝統を感じた」と話された。北海道での巡回展は、7回目。前実行委員長の

齋藤雨城先生からも一言をいただいた。無事に展覧会を終えることができた。

大通公園では、2年ぶりの「食の祭典」が開かれていた。幸せそうに、両手に

て読んでくれた姿。書の道での出会い、秋の空が、やさしくほほえんで終わり

かぼちゃを持って来場してくれた家族。校外学習の一環として来場した15人の中学1年生が「山頭火」と声を出しを告げてくれた。ありがとうございました。



会場風景 ①



会場風景 ②



会場風景 ③



会場風景 ④



会場風景 ⑤



(掲載図版・65%に縮小)

乙瑛碑
いっえいひ
(153)

後漢 筆者不明

古典鑑賞

幽讚神明。故特立廟。慶成侯四時來祠。事已即去。廟有禮器。無常

神明を幽讚す。故に特に廟を立て、慶成侯は四時に来たりて祠り、事已われば即ち去る。廟に礼器有るも、常（人の掌領する）無し、

解説

乙瑛碑は、後漢の永興元年（153）、魯國の大臣を務めた乙瑛（字は少卿）の請願を受け、孔子廟に百石の卒史（廟の祭祠を掌る役人）を置いて廟を守らせることになつた経緯と、乙瑛をはじめとする関係者の功績をたたえるために建てた碑である。書は波磔をもち、重厚で力強くたくましい隸書（八分隸）で書かれている。曹全碑や礼器碑などとともに漢代隸書碑の最高傑作の一つとされている。山東省曲阜市にある漢魏碑刻陳列館（孔子廟碑林）に現存する。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

（編集部）

漢字研究部臨書課題

（半紙普通判・縦使用）上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

（A. 大作の部・毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可）

当該古典の上記掲載部分以外も可。

（B. 小品の部・半切以上半切以内、全紙以内も可（A・B縦横自由））

針切
(云藤原行成)

①

特別研究部臨書課題

B.A.

小品の部

||半切以上

||半切以内

||縦横自由

別紙普通判(料紙可)・縦長に使用
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全幅も可)※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみ可)

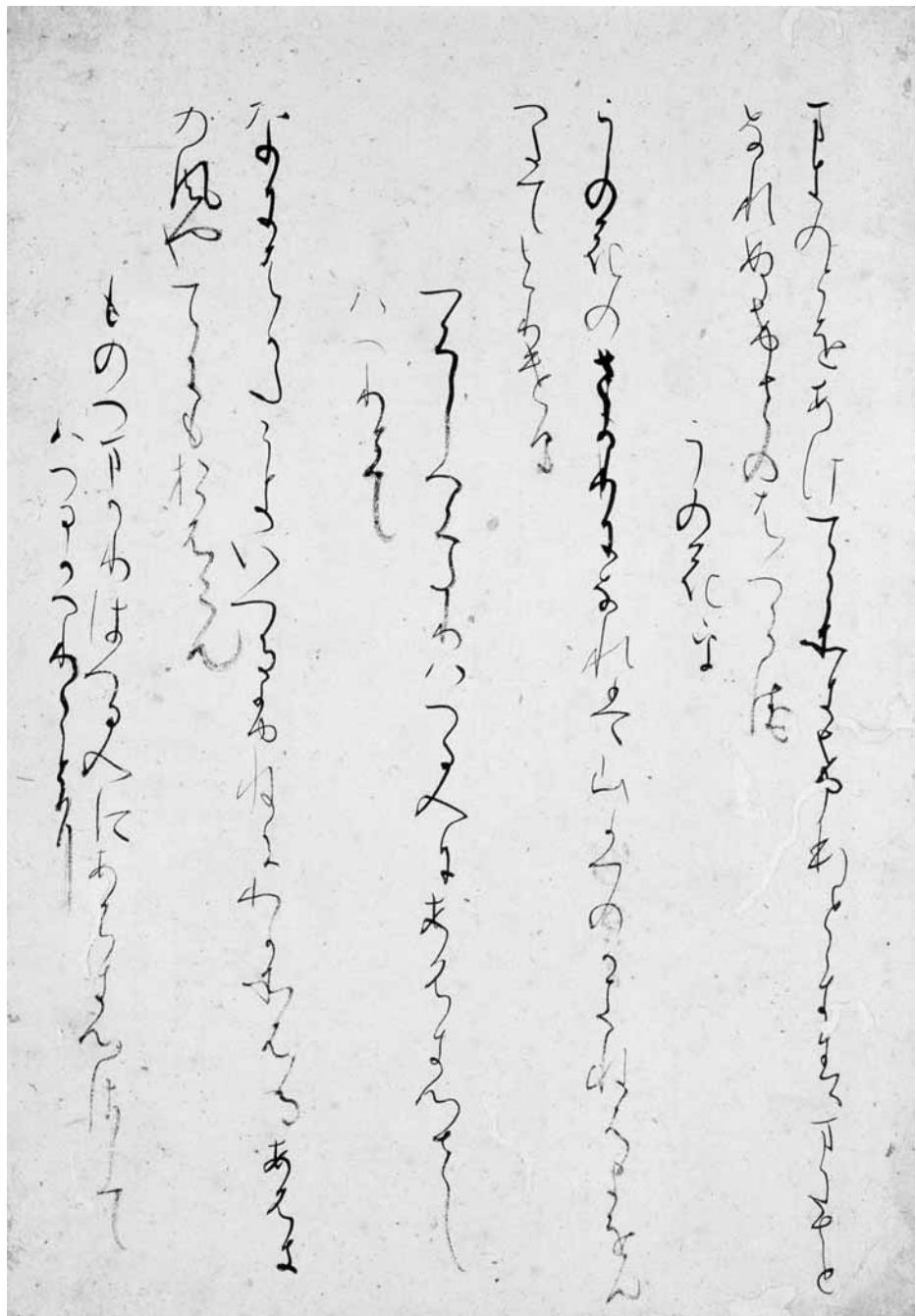
かな研究部臨書課題

B.A.

大作の部

||毎日展審会員、会員サイズ以内、
2×6尺、全紙も可

||いずれも左記の掲載以外も可。

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全幅も可)※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみ可)

(逸翁美術館蔵)

※落款を必ず入れる。署名、も
しくは〇〇臨(押印のみ可)

※古筆は原寸(以上も可)
で臨書しましょ。

※掲載図版・80%に縮小

〈解説〉
針切は、「源重之の子の

両家集を綴葉装の一帖に仕立てる冊子本で、楮質の素紙(縦22.8cm×横15.7cm)に書かれており。その筆致が針のよう細く鋭いところから針切とよばれる。「相模集」は詞書がない。「重之の子の僧の集」は1首あて1~2行ほど詞書があり、行間は均等にとる傾向にあり、一面の行数は一定していない。(編集部)

よみ
まきのとをあけてこそ
なれぬけさのはつこゑ
うの花を

* うの花のさかりになれば山がつかきねはよをも
へだてざりけり
つくしへくだりはべる人に、あふぎ心さし
はべりとて

* なにはがたこぎいづるふねにわがそぶるあふぎ
の風やてにもおふらん
ものへまかりはべる人に、あふぎ心さして
はべるかへりごとに

* 万支
まきのとをあけてこそ
なれぬけさのはつこゑ
うの花を

* うの花のさかりになれば山がつかきねはよをも
へだてざりけり
つくしへくだりはべる人に、あふぎ心さし
はべりとて

* なにはがたこぎいづるふねにわがそぶるあふぎ
の風やてにもおふらん
ものへまかりはべる人に、あふぎ心さして
はべるかへりごとに

習い方解説 (一)

名 越 蒼 竹

黄葉雨聲多
(黄葉雨声多し)
(歐陽脩詩)

葉の色づいた木々に雨が降り、
人影が少ない。

黃葉雨聲多

雨

聲
多
夕

蒼竹



書体=自由

6ヶ月シリーズのスタートは、楷書から。条幅作品を楷書体で書こうとすると、細字多字数の場合はともかく、初唐の謹厳な書風は避けたくなるものです。魏晉時代の温かさやプリミティブな味わい、北魏時代の力強さや雄大さに優れた楷書と比べると、努力が報われにくい気がしてしまいうからかもしれません。しかし、だからこそ常に腕を鍛えるために稽古をすべき書体ではないでしょうか。謹厳で求心的な書風の楷書は、それぞれの字座を見極め、字間をしっかりと取るべきです。互いの字座が干渉してしまうと、理知的な作風に見えなくなるからです。

参考作は始筆を強くしていますが、やや流れすぎたきらいがあります。兼毫筆を使用しています。

黄葉雨聲多 よみ(黄葉雨声多し)

川島舟錦

新論

遠大之慮
(遠大之慮)

新論



「画数の多い文字と少ない文字」
4 文字をいかにまとめるか、難しい課題を選んでしまったなあと反省したことです。

「遠」の中心やしんにようのバランスをとること。「大」の2画目は、途中までまっすぐな左払い。「之」の3画目をなだらかに下ろし右に払う。「慮」の「七」「思」は、扁平、中心より右側に。

「楷書体が基本」だといわれますが、実に難しい書体であるかを思いしらされます。解決策は、悩みながら枚数を重ねることでしようと。

今月より6ヶ月、よろしくお願ひします。

かな規定 初段以上【十一月十五日締めきり】用紙 半紙普通判（料紙可）

木村東舟選書

木村東舟

習い方解説 (一)

み山路やいつより秋の色ならむ
見ざりし雲の夕暮の空（あかねのうら）

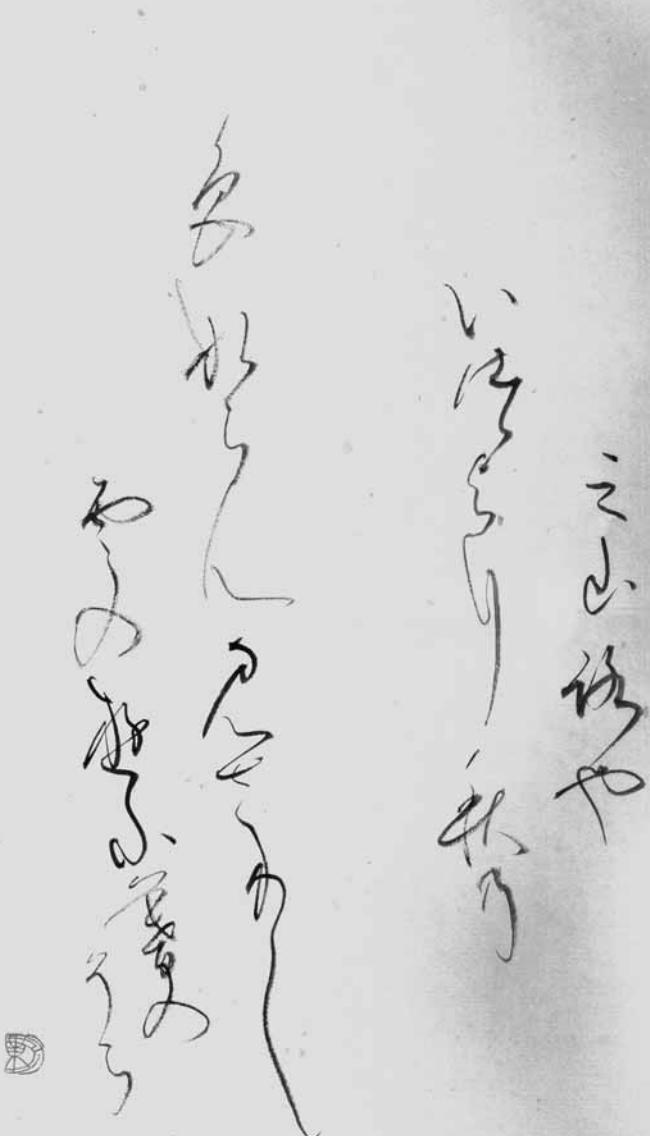
（前大僧正慈円「新古今和歌集」）

「山路はいつから秋の気配を漂わせているのだろう。夕暮れの空には、今まで見かけなかつた秋らしい様子の雲がかかる」との意。

歌選びは、その季節に合ったものにしたいですね。

かな作品は行の流れが大切です。2、3、4文字連綿をとり入れて滑らかな行の流れを出せるように心掛けました。

構成は、前半2行、後半3行にまとめた形にしました。行間は均等にせず、中央を広めにし、左右の行間も変化をつけました。紙面に対し、文字が大きくなり過ぎぬよう注意しましょ。



創作

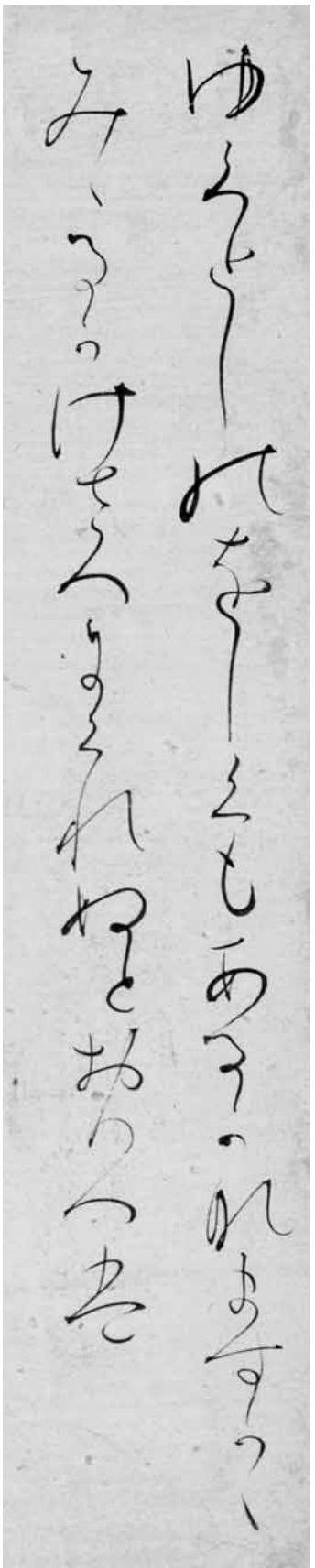
*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

よみ方 み(三)山路やいつ徒(徒)よ(与)り秋の(乃)色な(那)らむ(天)
見ざり(利)し雲の夕(遊)暮の空(曾)ら

かな規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ （料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真的和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿または単体を含む）を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方

ゆくとしの(能)をしへもあるか(可)な(那)ますか(可)ゞ
みゝるか(可)げさへに(尔)くれぬとおも(无)へば(盤)

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

佐藤希雲選書

習い方解説



佐 藤 希 雲

千鳥鳴ぐ佐保の川霧たちぬらし
山の木の葉も色まさりゆく
(王生忠岑「古今和歌集」)

佐保山の紅葉が深まったことを根拠として目に見えない上流の川霧の濃さを心の中で想像している歌です。

1行目に漢字を多くして、2行目をすっきりとまとめてみました。墨継ぎ以下、右下に流すのはよくある方法です。渴筆の部分は穂先が逃げないようにじっくりと運筆しました。

よみ方 千鳥鳴(奈)く(久)さ(佐)は(本)の川霧た(多)ちぬらし
山(や万)(の)能木(い)の葉も色(いろ)まさりゆく

創作

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (一)

小竹石雲

門前蕭索青松老
裏道遙白鶴閑
雲

石雲

門前蕭索青松老。雲裏逍遙白鶴閑。
(陳卿)
(門前蕭索青松老い、雲裏逍遙白鶴閑なり。)

書体=自由

今回より半年担当させていただきます。条幅は半紙と違い用紙が大きくなり、全体への配慮が大きくなります。多角的に勉強ができる、達成感は格別です。この作は、鍾繇の書風を参考にし、行書で親しみやすく素朴な表現を試みました。文字は小さくても内に秘めたエネルギーを表出来る作品に仕上げてみました。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [十一月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (一)

小林琴水

千
峰
黃
葉
村
琴
水
書

書体=自由

筆の弾力を使って、固くならないようにリズムにのせて書くことに気をつけて下さい。墨継ぎは「千」と「黄」で、一本調子にならないよう渴筆を出すことに工夫してみて下さい。墨の濃さ、墨の含ませ方が大事です。

千
峰
黃
葉
村
(千
峰
黃
葉
の
村)

廣瀬舟雲

アポロ11号のニール・アームストロング
船長が、1969年、人類初の月面着陸成功時に
語ったものです。言い得て妙で歴史に残る
言葉だと思います。翌年の大阪での日本万
国博覧会で「月の石」が展示されたアメリ
カ館は大人気で長蛇の列でした。2025年に、
再び大阪での国際博覧会の開催予定がある
そうです。今月号から半年間、偉人の名言
を書いていきます。

これは一人の人間に
とつては小さな一步
だが、人類にとつては
偉大な飛躍である。
アームストロングのことば

書体=自由

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

これは一人の人間に
とつては小さな一步
だが、人類にとつては
偉大な飛躍である。

アームストロングのことば

神無月錦秋愛知県岐阜県
神無月錦秋愛知県岐阜県

秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し

秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し

岩垣若翠

(楷書) 神無月 錦秋 愛知県 岐阜県
(楷書) 秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し

(行書) 神無月 錦秋 愛知県 岐阜県
(行書) 秋雨に煙る日は、冷え込みも一段と増し

基本用語 「神無月」旧暦10月の別称。出雲地方では「神在月」。「錦秋」紅葉に色づく秋の情景。秋の時候の頭書に。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 736



かな部 師範 中里 智香
すつきりと歯切れよいリズムで、
濃淡のバランスもよい。筆先の彈
力が巧みのため紙上に生彩を放つ。
◎かな部総評 行間の広狭、行の
倒れ方など苦心した様子で、調和
を欠いた作が多かった。参考手本
の解釈を十分にしたい。(洋子評)



前衛書部 特選 吉田 恵弦
紙面中央のどっしりとした黒の
世界と両側の力の抜けたかすれが
巧妙にマッチした力作です。
◎前衛書部総評 構成に工夫のみ
られる作が多く、紙も作品に合わ
せて選び、良い傾向。(説話評)

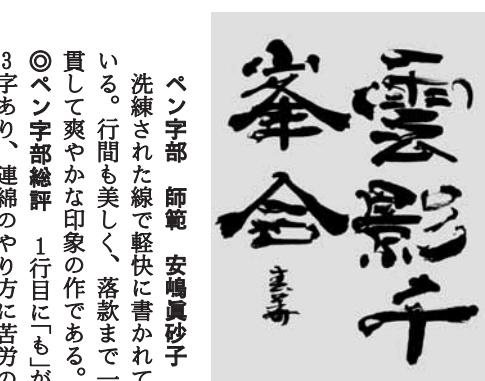


現代詩文書部 特選 阿部 雅慈
鋭くよく効いた線が心に突き刺
さる。運筆の抑揚と墨量の変化に
よる立体感があり、白が美しい。
◎現代詩文書部総評 日頃の漢字
や仮名の学習成果を活かした作品
作りを薦めます。(昌峰評)

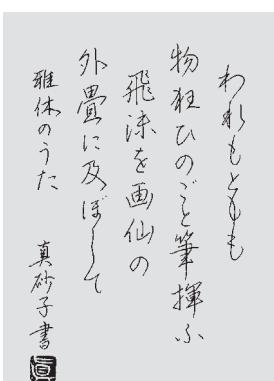


かな条幅部 師範 真下美佐代
大胆な構成の工夫と誠実な書き
ぶりが相俟って、類をみない作品
となつた。更なる進化、進化を!

◎かな条幅部総評 極端な濃墨、
淡墨で雰囲気を壊した作散見。あ
らゆる意味で中庸を大切にして、
美しい紙面作りを望む。(明子評)



漢字部 師範 宇田川春華
独特な筆法が生み出す、生き生
きとして表情豊かな線が魅力的。
漢碑を基礎に創意を加えた隸書。
◎漢字部総評 様々な作品制作
の古典を幅広く学び、表現力と鑑
賞力を養う事が、上質な作品制作
の礎です。地道に。(萬城評)



漢字条幅部 師範 戸部 藤風
筆の特徴に合った筆法を上手に
取り入れ、終始一貫した流れを楽
しく表現された。鍛錬の成果が!!
◎漢字条幅部総評 バラエティに
富んだ作品の数々。曖昧な文字も
散見されたので、常に字書活用に
触れ確認されたし。(藤風評)

実用書優秀作品

選評 三浦 鄭 街

◎ 実用書部総評

筆先のバネを上手に使って丁寧な運筆を心がける事がまず第一に大切です。半紙の世界ですが、呼吸を感じられる作品が良いかと。（鄭街評）

特選 奥村美楓
鋒先の妙を上手く生かし繊細さと
温もりが融合している秀作。

葉月 新涼 神奈川県 長野県
葉月 新涼 神奈川県 長野県
雲の流れもようやく秋のひまわりました
雲の流れもようやく秋のひまわりました

特選 加藤翠陽

葉月 新涼 神奈川県 長野県
葉月 新涼 神奈川県 長野県
雲の流れもようやく秋めいてまいりました
雲の流れもようやく秋めいてまいりました

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



光琢政理 充惠子 良澤千 祐良子 喜代美律

球政理 充惠子 良澤千 祐良子 喜代美律

重厚な黒の中の余白美

リズム感溢れる軽快な作

軽妙で巧みな筆さばき

強靭な直線とかすれ良好

動き大きく、立体感あり

選評 岡田秀韻

和加江 藤雪子 絵扇

淡墨のグラデーション美

立体感ある構成、見事

躍动感力強さ溢れる作

中央線により紙面構成巧み

三国時代の楷書を連想す

つい詩に引き込まれる作

杏邑 花香 紫舟

無理のない文字造形見事

細字のリズムが心地よい

功みな散らし書き成功

余白に負けない筆の動き

大小と墨量の変化、調和

行の傾きが面白く成功

遊山 霞香 菲祥

北魏風の鋭い線で力強い

細字のリズムが心地よい

横書き、二群の構成成功

落筆高く躍動的な作品

確かな字形で堂々たる作

墨量の変化が自然で佳

聰春 惠泉 祥舟

美しい淡墨、伸びやか

横書き、二群の構成成功

確かな字形で堂々たる作

墨量の変化が自然で佳

選評 大平邑峰

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 石井明子 小池蹊舟 東福青篁 山口仙草

小品の部



猪又理扇臨

35×135cm

部分拡大

書
千葉

(千葉)

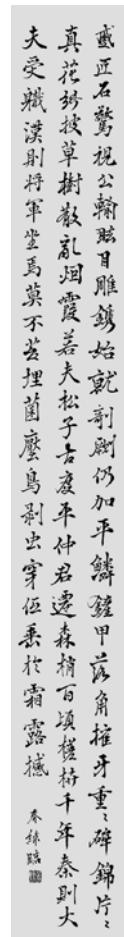
◆丁寧な書きぶりで一貫してよい。やや字が大きいのと墨量が多いので、用筆含めて軽みの研究を望む。

(明子評)



前衛書 (月華社)
佐藤光峯
「光」

◆濃墨を駆使し、紙面を二分割それぞれ工夫し、変化のある作品となつた。やや下部が重くなつたか。（仙草評）



臨書
(東總)
薄田春綠
「枯樹賦」

◆半切½の小品であるが、滋味溢れる格調高い臨書作。俯仰法や氣脈、墨ののせ方など好感度抜群です。（青篁評）



現代詩文書
(大雲) 奥村美楓 「子規の句」

◆筆先の切れ良く、筆の開閉も見事。運筆の抑揚のリズムが心地よく、格調の高い味わい深い作である。（蹊舟評）

奥村美楓書

79
点

特選候補者

總出品點數
79

漢字 133 占
かな 1 占

篆刻 | 08

小品の部

漢字研究部
(枯樹賦)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品

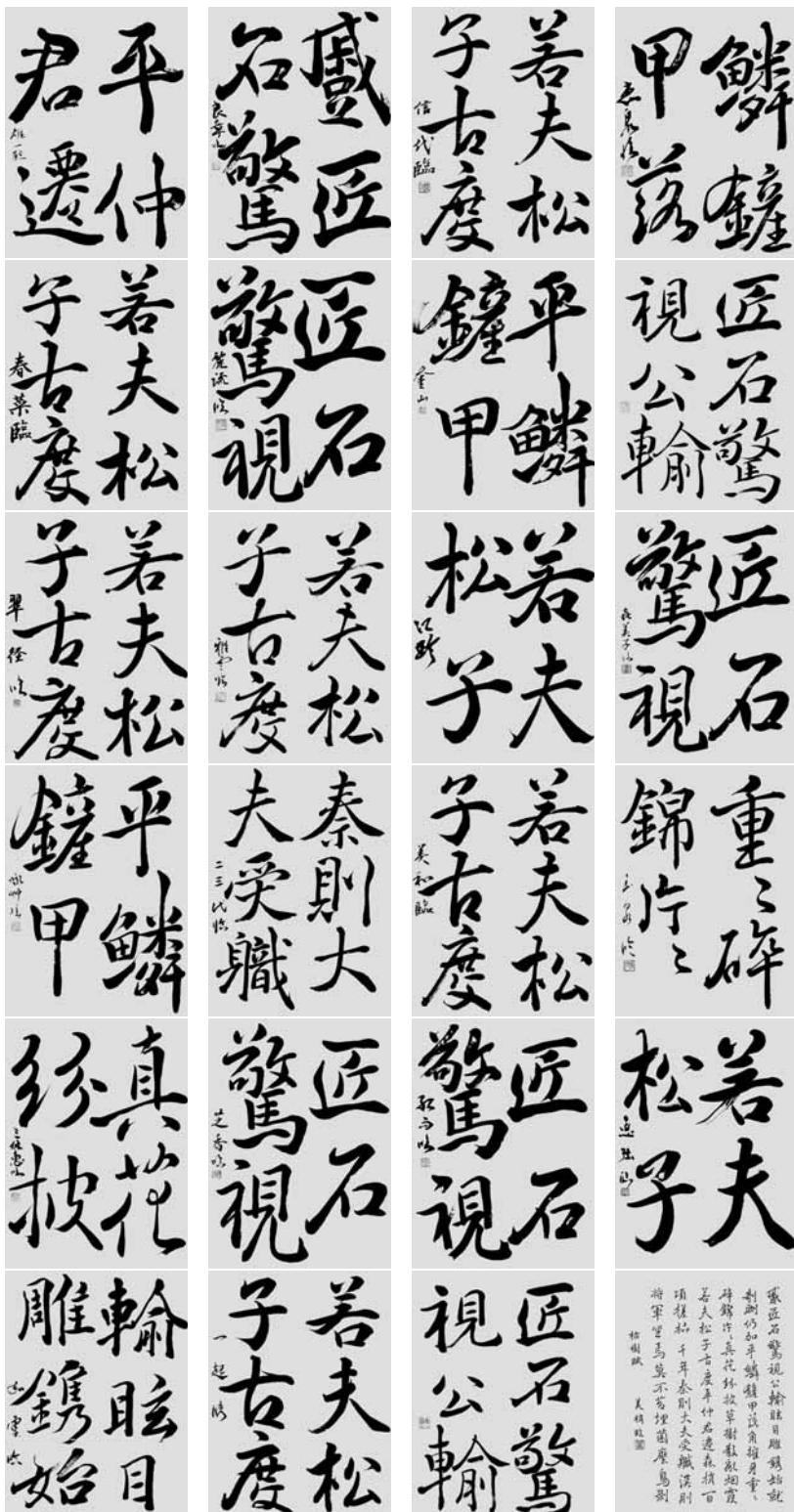


本 陸 月

漢字研究部 特選 笨 陸 月
原帖は文字が小さく、拓本でも時折筆脈が
不明瞭なためでしょうか。筆技が達者と思わ
る1行目と2行目を、章法面でも見事にま
とめた点にも実力の高さを感じられる。

◎漢字研究部 総評

れる作品にも誤字が見られました。「摧」字
の「山」が「ノ」と「ツ」で書かれてしまっ
たものや、「受」字の「又」を「大」と書い
てしまったものなどです。字典を大きいに使
用するときによくあります。また字形ばかりに気を取ら
れすぎると氣脈を貫通させることができなく
なります。線質にも影響しますから、抑揚を
つけながらも息長く運筆したいものです。



如三咏翠春雄
佐
雲惠艸徑菜一

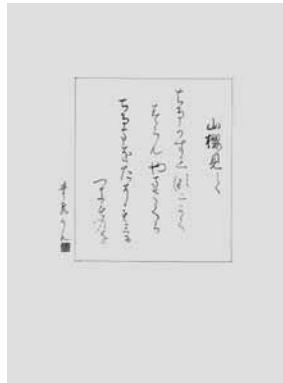
一芝二雅麗良
三
起香代雲流章

蕙紅美江奎信
和
風雨子玲山代

か な 研 究 部 (升色紙)

選評 大辻多希子

今月のホープ作品



堀江幸泉

◎かな研究部総評

誤字もなく、総体的に良く書かれていました。用紙により線に伸びのない作品もあり残念。峰先生の利かない筆や、滲み易い用紙では、小字のかなの連绵線は書けません。注意が必要です。

かな研究部成績表

書展

第36回書泉会会展

—併催・俊英10人展—

西川翠嵐

会期＝令和4年8月26日(金)
～29日(月)

会場＝高崎シティギャラリー

東京銀座と地元群馬とで1年おきに開催されている書泉会会展(下谷洋子主宰)が今年は高崎市のシティギャラリーを会場に開かれました。4部屋に分かれた2階のギャラリーには、前主宰の下谷東雲先生の遺墨をはじめ全国に広がる会員128名による140点の作品が



臨書も原寸、拡大と様々



主会場は役員と俊英10人展

並びました。
大字かなあり、古典の臨書ありとバラエティに富んだ会場はコロナ禍にもかかわらず大勢の観覧者でにぎわっていました。
今回は特に「俊英10人展」と銘打つて今後が期待される若手に大作の機会が与えられ意欲作が揃いました。一方役員の先生方はいつもと違う筆・紙の選び方、紙面構成と新しい取り組みに挑戦。筆を2本執つての作品なども見られました。臨書の部屋には関戸本や寸松庵に混じって書譜も登場。比較的新しいお弟子さんたちの小品コーナーも色とりどりの料紙が並び明るく華やかな会場となり、書をともに身近に感じられ、見る者を落ち着いた気持ちにさせてくれます。

書泉会らしい書展でした。

第34回 石心会書道展

●会期 令和4年11月11日(金)～13日(日)
午前10時～午後5時
(最終日は午後3時半まで)

●会場 岡山市灘崎文化センター
〒709-1215
岡山県岡山市南区片岡186番地
TEL 086-362-1600

●主催 石心会(会長) 小竹石雲
●後援 岡山市教育委員会
山陽新聞社
毎日新聞岡山支局
岡山県近代詩文書道連盟
書道研究書芸院

書展のご紹介について

○予告

後援申請書を書展会期2カ月前までに提出して下さい

○報告 (訪問記)

400～450字程度(1行17字詰)
会場風景作品写真等2枚まで

写真の裏にキャッシュョンを必ず明記して下さい。

・書道芸術院後援の展覧会に限りません。お知らせのあつた書展のみ掲載いたします。
・訪問記掲載の場合編集部まで事前にご連絡下さい。

編集部

後援申請について

後援申請をされる場合、書道芸術院所定の申請用紙でお願いします。

事務所にご連絡いただければお送りいたします。
・代表の方の団体、社中ににおける役職名を明記して下さい。

篆刻

【十一月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

(1) 謩刻 (ア) 課題による語句
(イ) 原印自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。



◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の糺文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和四年九月二十五日印刷行発

(毎月一回一日発行)

書

第七三八号

736
号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田一ー一六一七
東神田プラザビル三階

〈特選〉



「竇山画記」

特選 小沢華仙 原印觀察、運刀とも大変佳く仕上っている。更なる、ご研鑽を。

◎篆刻部総評
篆刻、創作共、真摯な作品が多く、その取り組みに敬意を表します。今後も多くの方々の応募を、お待ち致しております。
(大峰評)

特選 坂本覚山

(摹刻)	
秀作	特選
(50音順)	
芳琴 中日雲 林成鷺 田山 淳美喜 喜稍喜	大雲 小沢 華仙
入選	遊雲 蒼原筆 大網 片岡 豪峰 庄司 櫻空 中川 研治
(50音順)	
水香 大茎 葉書 丸山 吉高 須賀 酒井 加藤 岡秀 澤典 妙子 進一 起典 子	遊雲 蒼原筆 大網 片岡 豪峰 庄司 櫻空 中川 研治
(選外なし)	
(創作)	
秀作	特選
(50音順)	
宗粹 苑仙 やま 生石 大心 秀作 茂藤 橋中 木本 富昌 絢清 義峰 水仙 麗峰	慈空 坂本 寛山
入選	声白 四小 唯 香流 枝映 一 宮平 塚金 谷田 内成 由香 皓洋 唯一
(50音順)	
(選外なし)	

摹
刻

創
作



「周發殷湯」

1部	79円	1部	一ヶ月の購読料
2部	95円	~9部	までの1回の郵送料
3部	103円		
4部	119円		
5部	135円		
6部	151円		
7部	167円		
8部	183円		
9部	199円		
10部以上は			送料免除

令和四年九月二十五日印刷
令和四年十月一日発行
令和四年九月二十五日印刷
令和四年十月一日発行

編集兼
発行人 下 谷 洋 子

データ処理 印 刷

株式会社 リンクス

小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

東京都千代田区東神田一-一六七

東神田プラザビル三階

電話 (03)3862-1954

FAX (03)3862-1954

振替 〇〇一五〇四一三五〇五八

ホームページアドレス
<http://www.lincs.co.jp/shogei/>